

平成22年度 学校自己評価表(実施段階)

筑紫女学園中学・高等学校

学校運営計画(4月)			
学校運営方針	宗教的情操教育をもとに、常に勤労と責任を重んじて、自律的人格の完成に勤めるように指導する。 また、日常生活に即して、家庭及び社会生活に適応する知識と経験を習得させ、さらに平和的な国家社会の形成者としての資質の育成を目指す。		
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	評価(3月)
<p>本学園は、創立110周年にむけて、建学の精神に立ち返り、宗教教育の充実と学力向上のための取り組みを行った。</p> <p> Semester制、土曜日授業などの教育システムを活かして、生徒の学習活動を支え、進路の実現において成果をあげたが、さらに成果をあげるために、新カリキュラムの検討や高校3年生対象の志望大学別の課外授業実施などを模索していく必要がある。</p> <p>平成22年度も、宗教的情操教育を根幹に据えつつ、豊かな心を持ち、社会に貢献できる女性を育てるため、今まで以上に宗教教育を充実させながら、優秀な人材を輩出すべく、教育活動の充実が求められる。</p> <p>また、本学園の将来像を見据えた中期的・長期的ビジョンを策定していくことが今後の課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●宗教教育の全校的な取り組みを目指す ●人権教育を充実させる 	<ul style="list-style-type: none"> ○礼拝・行事における講堂での全職員による指導 ○ダーナ(献金)の全生徒への周知徹底 ○人権特設授業の充実を図るカリキュラムの作成 	<h1>A</h1>
	<ul style="list-style-type: none"> ●豊かな心と人間性を源に将来を拓く力を育む ●教員の教科指導力・生徒指導力の向上を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ○教育課程の編成・実施 ○生徒の学力向上の取り組み ○各教科での研究会、校外の研究会への参加促進 	
	<ul style="list-style-type: none"> ●自ら考え、自らを律していく精神を身に付けさせる□ ●基本的な生活習慣の確立、集団の中での社会性・公共性を育成する 	<ul style="list-style-type: none"> ○校則の遵守、挨拶の励行、時間の厳守の指導 ○服装容儀・公共マナーの指導 ○生徒による自主的な学校行事の運営 	
	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒の進路に対するモチベーションを高めるための取組を行なう 	<ul style="list-style-type: none"> ○進路説明会、進路講演会、ツイム講座などの実施 ○教員の進路指導、教科指導の研修会の実施 	
	<ul style="list-style-type: none"> ●芸術鑑賞等の研修を通して生徒の人間性の向上を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ○芸術鑑賞(演劇・音楽)、能楽鑑賞を実施し、生徒の人間性の向上や日本の伝統文化の理解を図る 	
	<ul style="list-style-type: none"> ●小学校、中学校の本校に対する理解を深めるための広報活動を充実させる 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校説明会の企画・実施、校外の説明会の参加 ○学校案内・ポスターの作成、塾・中学校への広報 	

部名	評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)			次年度の主な課題
宗教教育部	宗教教育の全校的取組	宗教的雰囲気醸成	掲示伝道(教室・掲示板)の充実 「毎月のことば」の解説を全生徒に配付する	A	A	A	全職員が何らかの形で宗教教育に参画できるような工夫を考える
		全職員の礼拝・行事への参加と生徒の指導	職員朝礼等での呼び掛け 宗教に関する情報発信	B			
		ダーナ(献金)の全クラス・生徒への周知徹底	仏教委員会での連絡の徹底 教室の黒板にダーナのコーナーを設ける 委員会だよりの発行	A			
	礼拝・行事	礼拝の充実	職員が講堂内の通路で勤行をリードする適正な音程で調声できるよう指導する 居眠りをしないよう、聞く態度の指導・巡視 講堂出入りの際に一礼するよう促す	A	A		
		講堂での静粛を保つ	講堂出入り口での職員の指導、総務・仏教委員がクラスを指導し、自主的な黙想を促す	B			
	人権・同和教育	中高6年間、高校3年間のカリキュラムの作成	作成したカリキュラムについて、授業後評価を行い、必要があれば見直しや修正をおこなう	B	B		生徒の発達段階に応じた人権・同和教育の実施
		特設授業実施のための資料収集	各種人権課題の授業の指導案サンプルを収集し、整理する	B			
		特設授業の充実	作成したカリキュラムに則り、各学年ごとにテーマに沿った授業を実施する	A			
	教務部	通常業務の遂行	通常業務を正確に遂行し、必要な改善を施す	各係間の連絡を密に取り、日常の業務をより正確に迅速に行う	A		A
来年度に向けて教務部内の組織や仕事の分担を見直す				B			
教科指導の充実		教育課程の理解、新平常点による評価により、生徒の学習意欲を喚起させる授業時間数の確保	新教育課程の編成・実施についての教職員間の共通理解を深める	A	A	A	
			学力不振の生徒に対する指導を通じて、追試験の対象者が各学年とも最小限度となるようにする	A			
			自習を出さない工夫をする(基本は振り替え、だめなら自習課題を準備)	B			
教務システムの見直し		システム変更と諸資料の書式見直し	新システム導入に伴い、学籍処理や成績処理システムを見直す 成績表など諸資料などの書式を見直す	A	A		

部名	評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題
生徒指導部	挨拶・時間厳守	基本的な生活習慣の確立	学校生活において職員・生徒とも互いに挨拶をし時間を守る	B	A	遅刻指導の徹底 校外でのマナーの徹底 校則の見直し
			授業開始時間の厳守・授業開始時の挨拶	A		
	服装容儀	正しい服装容儀の徹底	月1回の風紀検査の実施	A	A	
			違反者に対して継続指導を行う	A		
			各HRにおいて正しい服装容儀について理解させる	B		
	遅刻指導	遅刻をなくす	職員による毎朝の遅刻指導	A	B	
			遅刻常習者に対する指導・家庭への連絡	B		
	校門・校外指導	交通指導の徹底	職員による交通指導	B	A	
			交通安全教室の実施(自転車通学者のマナー教室も含む)	A		
		校外補導	職員による学校周辺・繁華街の巡回指導	A		
	美化	校内美化の徹底	月1回の美化コンクールの実施	A	A	
	寮務	生徒寮の円滑な運営	月1回の職員による寮訪問	A	B	
			寮務職員と寮監との日常における連携	B		
	防災・避難	非常時における行動様式の徹底	避難訓練の実施	B	B	
	生徒会	自主的な活動の推進	生徒による自主的な学校行事の運営を促す	A	A	
部活動	部活動の活性化	競技成績の向上のための指導	A	A		
		学習との両立を図り多数の生徒が積極的に活動できるよう取り組む	B			
保健	健康問題の発見	日常の健康観察を通して生徒が抱えている健康問題の早期発見に努め問題解決にあたる	A	A		
	保健指導の充実	生徒が自分の健康問題に対応できるように日常の保健指導の充実を図るとともに健康についての広報活動を展開する	A			
	不適応生徒の援助	不安や悩みを抱えている生徒の相談活動を積極的に進める 関係職員と連携し生徒を支える	A			

部名	評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題	
進路指導部	進路指導	生徒の進路に対するモチベーションを高め、進路目標設定・実現のための指導を行う	受験対策として高い効果を目指した課外授業、3年特別対策授業を企画・実施する また、課外授業の遅刻・欠席についての徹底した指導を行う	A	A	入試制度変更に伴う迅速かつ的確な対応 進路学習の再編 課外の欠席・遅刻を許さない、徹底した指導 新システム(SCHOLAR)の充実と有効利用	
			校内実力テスト、校外模試の企画・立案を行う	A			
			ツイム(追夢)講座(大学からの出張講義)、大学説明会、進路説明会・講演会などを企画・実施し、生徒の進路目標を明確にさせる(進路指導の活性化)	A			
			問題を設定し解決する能力の育成を目指し、個々に応じた小論文指導を行う	A			
			校外模試資料を作成し、分析会を実施し、学習指導・進路指導にフィードバックしていく	A			
		進路情報を迅速に発信し、指導に活かす	進路の手引、進路だより、進路速報などを作成し、生徒・教職員に向けて進路に関する有益な情報を迅速に伝える	B	A		
			進路情報室の開放、校内進路情報サイトの公開を行い、これらの内容充実を図る	A			
		大学入試センター試験受験率の向上を目指す	生徒に大学入試センター利用入試の活用を促す	A	A		
研修部	校内研修	授業研修の推進	新任常勤講師・新専任教諭・専任教諭それぞれに研究授業を行い、教科指導上の課題を明らかにし、問題点の共有化を図る	A	A	各教科の研究授業の反省会のあり方などをさらに工夫する 校外研修の情報を増やしていく 実習生への指導の徹底	
		職員研修の推進	各部や職員から、必要な研修を上げてもらい、厳選した上で実施し、教員としての資質の向上を図る	A			
		新任研修の推進	新任・新担任へ授業指導だけでなく生徒指導全般の理解を深めるために、実施する	A			
	校外研修	校外教育資源の活用	様々な組織・機関主催の研修会に関する情報を収集し、各部・各教科研修の機会を提供する	B	B		A
	生徒研修	生徒研修の推進	芸術鑑賞:音楽・演劇などを通じて生徒の人間性の向上に努める	A	A		
			能楽鑑賞:能楽を通じ、日本の文化・伝統の理解に努める	A			
			大学訪問:夏休み中に希望者ではあるが、関東の大学のオープンキャンパス等に参加し各校の校風を感じるにより、進路意識を高める	B			
	教育実習	全職員による効果的な指導体制の確立	毎年30人以上の実習生を受け入れている現状に鑑み、全職員で後進を育てていく体制を整える	B	B		

部名	評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題
広報部	広報	塾(小学校)・中学校の本校に対する理解を深めるための広報活動を行う	塾・中学校に対する広報活動の企画・実施	B	A	塾・中学に対する広報活動の充実 学校紹介見学会や学校説明会の内容の練り直し 学校案内の内容の刷新 広報誌の発行
			私学展での広報活動の企画・実施や受験生対象の学校紹介の企画・実施	A		
			学校主催の入試説明会の企画・実施、塾主催の説明会への参加	A		
			高校体験入学の企画実施	A		
		学外への情報発信を盛んにする	充実した内容で工夫がなされた学校案内パンフレット・ポスターを作成する	A	A	
		ギャラリーの広報機能充実	ギャラリーの展示を企画・立案し、展示内容に工夫を凝らす	A	A	